

「研修会等名称」

C ・7/27 (月)「情報教育セミナー2015」  
公益財団法人学習ソフトウェア情報研究センター  
場所：ニッショーホール (港区虎ノ門2-9-16)  
期間：平成27年7月27日 (月)

1. 研修の内容

C ・7/27 (月)「情報教育セミナー2015」

タブレット端末活用とアクティブ・ラーニングを行うにあたって、アクティブ・ラーニングに創造思考やデザイン思考の技法をどう導入するかについての留意点等について、具体的な実践例をもとに最新の知見の紹介。

1. 基調講演

「教育の情報化」に対する文部科学省の施策  
豊嶋基暢 (文部科学省生涯学習政策局情報教育課長)

2. 特別講演1

「アクティブ・ラーニングの本質とデジタル技術の役割」  
安西祐一郎 (独立行政法人日本学術振興会理事長)

3. タブレット端末活用実践セッション

コーディネーター： 佐藤幸江 (金沢星稜大学教授)

パネリスト：

金子和男 (柏市立中原小学校教諭)  
近藤 睦 (横浜市立港北小学校教諭)  
楠本 誠 (松阪市立三雲中学校教諭)

4. 特別講演2

「創造思考とデザイン思考の統合としてのアクティブ・ラーニング」  
國藤 進 (北陸先端科学技術大学院大学名誉教授・客員教授)

## 2. 研修の成果

1. の基調講演では、「教育の情報化」に対する文部科学省の施策について、具体的な学校教育におけるICT活用の現状と課題が示された。また、行政施策についても、地方交付税ベースの予算処置であることなど、詳細が理解できた。

2の特別講演では、アクティブ・ラーニングの本質、それが求められる根拠について、よく理解できた。特に、小・中の実態と、高校の実態のずれ、そして、それらの起因になっているのが、大学入試のあり方にあることも理解した。

3のタブレット端末活用実践セッションでは、プレゼンテーションソフト「白板ソフト」マイクロブレン社製のデモに参加した。同ソフトは、子ども達が、グループ討論を行ったり、作品制作を共同で行うなどの協働的な学びを可能にさせると直感した。従来の教材・教具との選択や組み合わせなどを統合したような、タブレット端末の実践的な活用を可能にするものと理解した。

4. の特別講演2では、「創造思考とデザイン思考の統合としてのアクティブ・ラーニング」という演題であったが、要するにKJ法をALの観点で、導入することについての意義・効果という趣旨と理解した。

## 3. 授業への研修成果の反映状況

特に、3への参加によって、白板ソフトのAIによるアニメーションを授業でのプレゼンに使用する準備を進めている。また、後日、9月には同研究会会員になりすでに別途参加している。

基礎演習や発送議論演習のような入門ゼミで、これらの導入を検討できないか提案したい。